

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学位授与方針を2010年度中に明文化する。	→学位授与方針を明文化した文書。	C	B	A	A	A
2. 教育課程の編成・実施方針を2010年度中に明文化する。	→教育課程の編成・実施方針を明文化した文書。	C	C	A	A	A
3. 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の周知方法を2010年度中に検討し、2011年度より実施する。	→教育目標、学位授与方針、および教育課程の編成・実施方針の公表・周知状況。	B	B	A	A	A
4. 上記編成・実施方針の点検を定期的に行うよう学部カリキュラムWGの業務を明文化する。	→学部カリキュラムWGの業務を明確化した文書、および点検の実施状況。	B	B	A	A	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 理工学部の理念・目的のもとに学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)が明文化され、2011年7月に教授会において承認された。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 理工学部の学生が卒業時に習得しておくべき知識や能力を明確にすることができた。2015年に新学科が開設されるので、学位授与方針に沿った教育ができるようにする必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年に開設される新学科の教育内容が学位授与方針に沿ったものになるように、カリキュラムWG等で確認を行う。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか理工学部の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に沿う形で明文化され、2011年11月に教授会で承認された。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの科目群の関係をカリキュラムマップとして表現することができ、授業提供科目の位置づけが明確になった。2015年に開設される新学科の教育内容がディプロマ・ポリシーにふさわしい内容になっているかどうかの検証が今後の課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年に開設される新学科の教育内容がディプロマ・ポリシーにふさわしい内容になっているかどうかをカリキュラムWG等で確認を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた理工学部の教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)については、1)「授業科目履修心得」への掲載と新入生履修指導による学生への周知、2)4月の教授会での教員への周知、3)ホームページ(http://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/education4/)による学外への公表を2011年度より行っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 理工学部の教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を学部内外に周知することが可能になった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も引き続き、新入生履修指導、教授会、ホームページなどの手段を用いて、学生・教員への周知を続ける。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか理工学部の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)の適切性は年度初めの学部長室委員会で検証し、問題点がある場合は、学部カリキュラムWGでその点について検討を行うということを、2010年度に学部長室委員会で決定した。カリキュラムWGの業務は「理工学部カリキュラムWGの役割」という文書により明文化した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 理工学部カリキュラムWGの役割が明確化され、定期的に(月1回)開催され、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に沿った教育システムの点検が行われるようになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年に開設される新学科を含めて、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に沿った教育が理工学部で行われているかについて検証を行い、教育システムの改善を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆